

態度が意思決定に及ぼす  
影響過程に関する MODE モデルの実証的研究  
— 熟慮への動機づけ・機会が態度—行動—貫性に及ぼす影響について—

中 村 和 彦

問題の所在

態度と行動が一貫していることは社会心理学において長い間暗黙の前提とされてきた。ところが、Wicker (1969) は、それまで行われた研究のレビューから態度と行動の一貫性の低さを指摘し、この前提に対して疑問を投げかけた。この Wicker の指摘以降、態度と行動の一貫性に関する議論が高まり、数多くの研究がなされてきている。これらの多くの研究は、例えば、セルフ・モニタリングなどのパーソナリティ変数や自覚状態を高める状況変数などのような、態度と行動の一貫性を左右する第3の変数を見い出そうとする研究（調整変数的アプローチ）が主であった。しかし、調整変数的アプローチは、それを続けても無限大の変数を羅列するのみで「なぜ態度と行動が一貫するのか」に関する理論が欠如しているという指摘があり、どのようなプロセスで一貫するのかを説明できるプロセス・モデルの必要性が求められていた (Zanna & Fazio, 1982)。最近、この態度—行動—貫性に関するプロセス・モデルとして提出されたのが、Fazio (1990) の MODE モデルである。

MODE モデルでは、熟慮への動機づけと熟慮の機会がない場合は自発的処理プロセス（仮説駆動型処理を基本とした処理）が生じ、熟慮への動機づけと機会がある場合は熟慮的処理プロセス（データ駆動型処理を基本とした処理）が生じると仮定されている。そして自発的処理プロセスが生じた場合は、態度が行動や意思決定を導き、態度と行動の一貫性は一般に高くなるが、熟慮的処理プロセスが生じた場合は、態度以外の様々な情報も考慮され、その結果、態度と行動の一貫性が一般に低くなりやすいとしている。本研究は、この仮定を実証することを目的として行われた。

予備実験

予備実験として、MODE モデルの唯一の実証例である、Sanbonmatsu & Fazio (1990) の追試が行われた。この実験は、熟慮的処理か、自発的処理のどちらが生じたかが決定の結果からわかるように構成された刺激を作成し、その刺激によって2つのデパートに対する態度と属性情報（デパート部門の特徴）の記憶を形成させた後、熟慮への動機づけと熟慮の機会の2×2の2要因（4条件）で、購買に関する意思決定を被験者に求

めるものであった。

追試の結果、熟慮への動機づけと熟慮の機会の主効果が有意であり、熟慮への動機づけと機会がない場合に自発的処理が生じ、熟慮への動機づけか、機会の一方がある場合は熟慮的処理がなされていた。この結果は、Sanbonmatsu らの結果とは若干の相違があるものも、熟慮への動機づけと機会の双方が存在する場合は熟慮的処理が、双方が存在しない場合は自発的処理が生じるという点は再現され、MODE モデルの仮定に一致した結果であった。

また、Sanbonmatsu らの実験では触れられていないが、MODE モデルの仮定として、態度アクセシビリティと処理の形式とに交互作用が生じることが想定されている。すなわち、自発処理プロセスにおいて態度が行動を導く場合は態度アクセシビリティが高いときであり、態度アクセシビリティが低いときは自発的処理プロセスにおいても態度—行動—貫性が高まらない。それに対して、熟慮的処理プロセスにおいては態度アクセシビリティのレベルと態度—行動—貫性レベルは関連がなく、態度アクセシビリティの高低に関わらず、態度—行動—貫性は低いと仮定されている。この仮定を検討するために、予備実験において、態度測定の際に態度評定までの反応時間を測定し、その反応時間に基づいて態度アクセシビリティを求め、態度アクセシビリティと熟慮への動機づけ・熟慮への機会との交互作用の有無を検討した。その結果、態度アクセシビリティと熟慮への動機づけとの交互作用が有意であり、考える動機づけが低いときの高・態度アクセシビリティの個人が最も態度に影響されやすいことが示唆された。

このように MODE モデルの仮定にある程度一致した結果が再現された。しかし、この実験や Sanbonmatsu らの実験にて用いられた態度は刺激によって形成されたものであり、行動も架空の状況での行動意図が用いられており、現実に個人が持つ態度と実際の行動の一貫性を扱ったものではなかった。そこで、現実に個人が持つ態度（カセットテープのブランドに対する態度）と実際の行動（複数提示されたカセットテープからの選択）を用いて、MODE モデルの仮定を検討した。

## 本実験

### 手続き

N 大学教養部 1・2 年生 72 名（有効 57 名）の被験者が、高・熟慮への動機づけ+時間の圧力なし条件（以下、D 条件<熟慮的处理モード条件>とする）と低・熟慮への動機づけ+時間の圧力あり条件（以下、S 条件<自発的处理モード条件>とする）に無作為に振り分けられた。カバー・ストーリーの実験の後、被験者は実験の謝礼として 4 本のカセットテープから 1 本を選ぶように求められた。それらの 4 本のテープは以下のように構成されていた。まず、実際に市販されている 2 社のブランドからグレードが異なり、しかもブランド間では競合するようなカセットテープを 3 本ずつ、計 6 本があらかじめ選出された。また、カバー・ストーリーの実験において、2 つのブランドに対する態度が一对比較の形で測定された。そして、この両ブランドに対する一对比較の結果から、6 本のテープのうち、被験者がより好意的な態度を持つブランドからは一番低いグレードと真ん中のグレードのテープを、そして、より好意的ではない態度を持つブランドからは真ん中のグレードと一番高いグレードのテープの計 4 本を選び出し、被験者の前に提示した。

その際、D 条件の被験者は、「今後の参考にするために、どうしてそのテープを選んだのか、その理由をお聞きしたいので、ゆっくり考えながら選んでください」と伝えられ、S 条件の被験者は、「次の被験者の方が来る時間になってしまったので、申し訳ないですが、早めに選んでください。」と伝えられた。また、被験者がテープを選択した後に、操作チェックの項目が実施され、次に、特殊なタイプの思考リストに考えたことや感じたことを記述するように求められた。この思考リストへの記述は、仮説に未知な大学院生 1 名によってコード化された。

### 結果

熟慮への動機づけと時間の圧力に関する操作チェックの 2 項目について、条件間で有意な差がみられた。また、思考リストのコード化された結果からは、品質に関する思考は D 条件により多いことが見いだされた。これらのことより、操作は成功したといえる。

もし決定が態度に影響されれば、ブランドに対する態

度と一致したテープを選択するが、グレードという属性によって決定したならば、ブランドに対する態度と一致したテープは選択しないと予測される。そこで、D/S 条件間での選択されたテープのブランドの相違を検討したところ、両条件に差はなく、両条件ともより好きなブランドのテープを選択していた。次に、思考リストからは、選択肢を絞っていくパターンのうち、4 つ→2 つ→1 つというパターンが多く見られたことから、4 つから 2 つに選択肢を絞る過程を一次選択として、D/S 条件が一次選択に及ぼす影響を検討した。その結果、D 条件も S 条件と同じくらいブランドに対する態度によって一次選択をしており、両条件とも態度が影響を及ぼしていた。以上のように、D/S 条件の間には態度の影響の仕方に差が見られず、MODE モデルの仮定とは一致しない結果となった。

### 討論

ブランドに対する態度測定の際には、一对比較の他に、それぞれのブランドに対する態度の評定も行ったが、その値の差を態度ディクレパンシーの指標として、決定に及ぼす影響を検討した。その結果、高・態度ディクレパンシー群は、低・態度ディクレパンシー群に比べて、D/S 条件を問わず、選択されたテープのブランドや一次選択に対して態度が非常に影響していた。また、高・態度ディクレパンシー群は熟慮への動機づけの操作チェック項目から見た熟慮への動機づけも低く、決定の際もテープの裏面の記載を参照しようとはしていなかった。このことは、D 条件のような熟慮的处理を促進する状況でさえ、ある種の態度を所持する個人は熟慮しようとはせず、代わりに個人の持つ態度によって自発的处理プロセスによって決定する可能性があることが示唆された。この可能性は、Heuristic-Systematic Model の Sufficiency Principle から解釈可能である。また、選択のパターンは、D 条件は 4 つからまず態度によって 2 つに選択肢を絞り、それから品質によって 1 つに決定するパターンが多いのに対して、S 条件は態度によって 2 つに絞ってから、デザインによって 1 つに決定するパターンが多く、4 つの選択肢は D 条件の被験者にとっても情報負荷が高く、選択肢を絞る際に態度に頼りやすいことが示唆された。